普及センターだより

絹を作る昆虫「蚕（かいこ）」

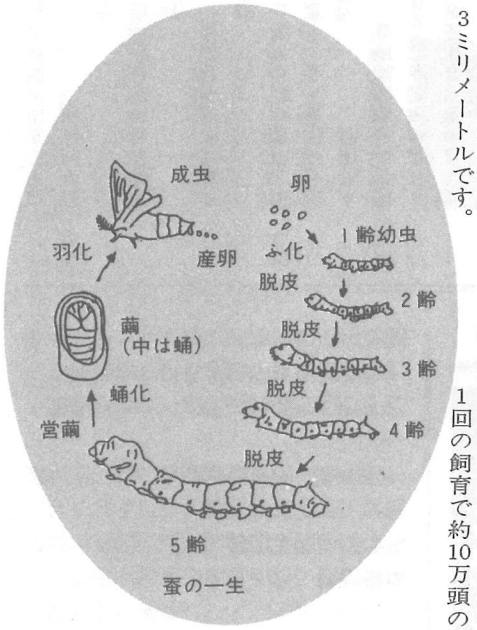
着物やドレス、スカーフ、ネクタイなど、絹織物の材料である「絹」を作る蚕について紹介します。

○蚕は不思議な昆虫

蚕は蝶の仲間です。絹糸をとるために4500年前から、長い年月をかけ飼い慣らされた昆虫です。現在は品種改良され、病気に強く糸がたくさん取れるようになりました。しかし、体が大きくなりすぎ動作も鈍く、人間の手にかからないと生きていけません。

○蚕から繭ができるまで

卵からかえった蚕は、体長1・3ミリメートルです。



蚕の一生

その後幼虫は、桑の葉を一日中ムシャムシャと食べ大きくなります。卵からかえって25日位で7から8センチメートルになった幼虫は、桑を食べなくなり体が飴色になります。すると繭糸をはきはじめ真っ白な繭を作ります。

○養蚕農家の仕事

山武郡市内には、30戸の養蚕農家があり、5月から9月の間に4回から5回の飼育をします。1回の飼育で約10万頭の蚕を飼い、約200キログラムの繭が生産できます。

農家では、桑園から桑の枝を切ってきて蚕に食べさせ大切に育てます。やがて糸を吐き始めると、繭をつくらせるために「まぶし」とよばれる枠にいれ、繭をつくらせます。繭をつくり始めて10日位たってから繭をまぶしから取り出し、集めて製糸業者に出荷します。

○絹織物ができるまで

製糸業者では、繭を煮て糸をほぐし、引っ張って巻き取ります。それらをより合わせた糸（生糸）をいろいろ加工して、美しい絹織物ができます。

○着物1着分をつくるには

絹織物を1反（着物1着分）つくるには、2700頭の蚕が必要です。98キログラムの桑の葉を食べさせると、4900グラムの繭が取れます。この繭から900グラムの生糸が得られ絹織物1反（約700グラム）を織ることができます。

最近、特に細い糸の繭をつくる飼育技術が開発されました。品質も最高級であることから、超高級生糸として注目されています。

（農畜産科　長崎　仁技師）

※問い合わせは、普及センター松尾駐在(86)4121～2)へ。

文芸

俳句

おちょぼ口含む頬っぺやさくらんぼ　玉虫たけし

娘がくれて派手なセーター母の日よ　若梅あやめ

母の日や電話の声のプレゼント　小林　順子

母の日や錆びし焼鏝（やきごて）残り居り　福田　晴一

樟若葉めじるしにして友と逢ふ　戸村　静華

母の日や母娘で交す長電話　福田　幸子

母の日や夢に逢ひける観世音　今関　茂生

青き踏む杖にすがれる吾が影と　土屋　栗水

俺貴様異国でビール汲んだ仲　鈴木　草庵

そら豆や莢の長きは七つ入り　藤代　ゆう

葉桜や若きベンチの二人手話　選者　山口　一秋

短歌

ひと群の鳩青空を旋回し羽音を残し飛び去りゆきぬ　中越美代子

水門の鉄の扉にさへぎられ膨らむやうに水の現はる　永藤　滋

隣り家の赤きつる薔薇塀を越え今朝はわが家の庭に咲きゐつ　秋葉　とく

ひび割れし鏡に写るわれの目が左さがりに歪んで笑ふ　佐瀬　初音

ひさびさに訪ひ来し妹と十日間昔しのびて話は尽きず　石井　ユク

起こさずにこのままおきたい莢の中真綿の布団にねむる蚕豆（そらまめ）　八角　三枝

花明かり浴びみつつリフトに下りゆくつつじ蘇芳（すおう）の色に咲くかな　西山満里子

フクシアも木立ベコニアも原種みなまこと簡素な花咲かせゐつ　渋谷　静子

朝靄のはれゆく印旛沼かる鴨が水面を蹴りて飛び立ちゆけり　萩原　信一

浮かべたるバラの香漂ふ風呂の中踊るがに花の吾によりくる　池田　春江

しらさぎに踏み潰されし植ゑ苗を一本一本起こしてやりぬ　斉藤　秀男

七百年生きこし藤は幹古りて座禅組むがに絡み合ひゐつ　選者　斎藤つね子